

## JP040 十和田・八甲田（とわだ・はっこうだ）

青森県：青森市、黒石市、平川市、十和田市、新郷村、三戸町、田子町

秋田県：鹿角市、小坂町

位置	N 40° 37′ E 140° 53′
面積	49,000ha

### 環境構成【森林】

十和田火山群及び八甲田火山群により形成されている。十和田湖は、約 20 万年前に始まった十和田火山の活動の繰り返しによりできた二重カルデラ湖。奥入瀬溪流は十和田湖に源を発する唯一の河川で、溶結凝灰岩を深く浸食した溪谷が発達している。八甲田連峰は大岳、高田大岳、赤倉岳を中心とする北八甲田火山群と楡ヶ峯、駒ヶ峯、乗鞍岳を中心とする南八甲田火山群に大別され、南北合わせて 20 余りの火山体より構成されている。

植生は、標高 900m 付近まではブナ、カツラ、イタヤカエデ、トチノキ等からなる落葉広葉樹、それより上部はアオモリトドマツ、ハイマツ等の針葉樹と高山植物群落が広がっている。

動物は、動物分布上重要なブラキストン線にも近いことから、南方系と北方系の動物が入りまじる興味深い地域となっている。なお、特筆すべきものとしては、カモシカ、オコジョ等の哺乳類の他、クマゲラ、アカショウビン等の鳥類等があげられる。

（出典；十和田八幡平国立公園の自然環境）



写真：高橋雅雄

### 選定理由

A3	-
----	---

### 保護指定

サイトの全域（90%以上）に法的な担保がある

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（十和田）、国立公園（十和田・八幡平）、自然環境保全地域、保護林

### 保全への脅威

・現状、大きな変化は見られないが、十和田湖にカワウのねぐらができ、今後の動向に注

意が必要である。

- ・奥入瀬川での倒木裁判を経て、危険木の伐採が必要以上に進み影響が予想される。
- ・冬のレジューが盛んになっており、その影響は未知である。

## 鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化  
変わらない
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有  
＜調査データの入手方法＞  
生物多様性センターホームページのモニタリングサイト 1000 の調査結果より
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：  
変化はない
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：良好（全域、もしくは 90%以上が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：有

## **保全活動**

- ・ 環境管理：実施者（環境省、青森県）
- ・ 外来種のコントロール：実施者（環境省、青森県）  
内容：オオハンゴンソウ・セイタカアワダチソウの駆除
- ・ 環境教育活動：実施者（有料ガイド、ボランティアガイド）  
内容：トレッキングや自然観察会  
自然案内、展示などの普及活動（十和田ビジターセンター）
- ・ 法律制定、政策、規制：実施者（環境省、青森県）
- ・ モニタリング調査：実施者（青森県）  
内容：青森県では砂防ダムや道路、農地開発には事前と工事中、事後のモニタリング調査を行っている。
- ・ 経済活動を通じた保全（エコツーリズム等）：実施者（有料ガイド・ボランティアガイド）  
内容：トレッキング、カヌーツアー、植物・コケ観察会

## IBA サイトの保全に関係する地域のグループ

- ・ 日本野鳥の会青森県支部
- ・ 奥入瀬自然観光資源研究会

## 見られる鳥

### ■十和田湖

夏鳥	アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、キセキレイ、カワガラス、ウグイス、キビタキ、オオルリ、エナガ、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ベニマシコ、コムクドリ、カケス、オシドリ、アカハラ
冬鳥	ハジロカイツブリ、ミミカイツブリ、マガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワアイサ
旅鳥	シロハラ、ツグミ

#### ■ 奥入瀬溪谷

夏鳥	ヤマセミ、アカショウビン、オオアオゲラ、キセキレイ、ミソサザイ、カワガラス、コマドリ、コルリ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ
----	--

#### 関連団体・自治体・施設等

- ・ 日本野鳥の会 青森県支部
- ・ 日本野鳥の会 秋田県支部
- ・ 十和田湖国立公園協会

